

①就労支援の一連のプロセスを
含むモデル事例のケーススタディ

②地域の支援機関との課題共有



～働きたい・雇いたいを応援する～

高槻市障がい者就業・生活支援センター 陸野 肇

〒569-0803 大阪府高槻市4-17

TEL 072-668-4510 / FAX 072-668-4530 / E-Mail skip4510@tiara.ocn.ne.jp



地域の支援機関の課題共有 グループ討議

- 自己紹介＋事例の一言感想

出来れば地域状況・ネットワークの説明で一巡

- その後発表者を決めて次ページを話し合ってください
4～5名グループなので司会は無理に決めなくて良いとは思いますが、必要なら司会を決めてください。

地域の機関との連携やネットワークにおいて

- 困っていること
- うまくいったこと
- 今後こうなって欲しいこと

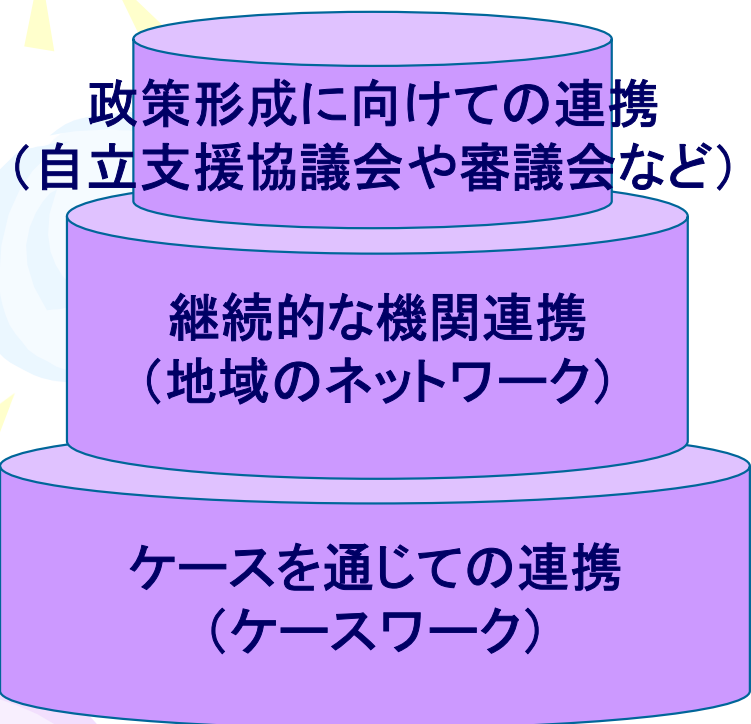
などなどを自由に話し合ってください

～各グループ発表のメモ～



連携・ネットワークにも種類があります。まずは土台のケースを通じての連携を積み重ねていくことが重要

3層構造のネットワーク



	ケースを通じての連携	継続的な機関連携
目的	対象者に対する効果的・効率的な支援の形成	地域の仕組みづくり
メンバー	支援に必要な人材	就労支援に関係する機関の実務担当者や管理者
会合の頻度	支援の進捗状況により会合を開催	事務局が調整
終結	長期的に支援を行う場合でも短期のゴールを設定し一旦終結	社会情勢の変化等により次のステップへ移行

資料:松為信雄2009

『地域における障害者の就労支援ネットワークに関する調査研究』NPO法人 ジョブコーチ・ネットワーク

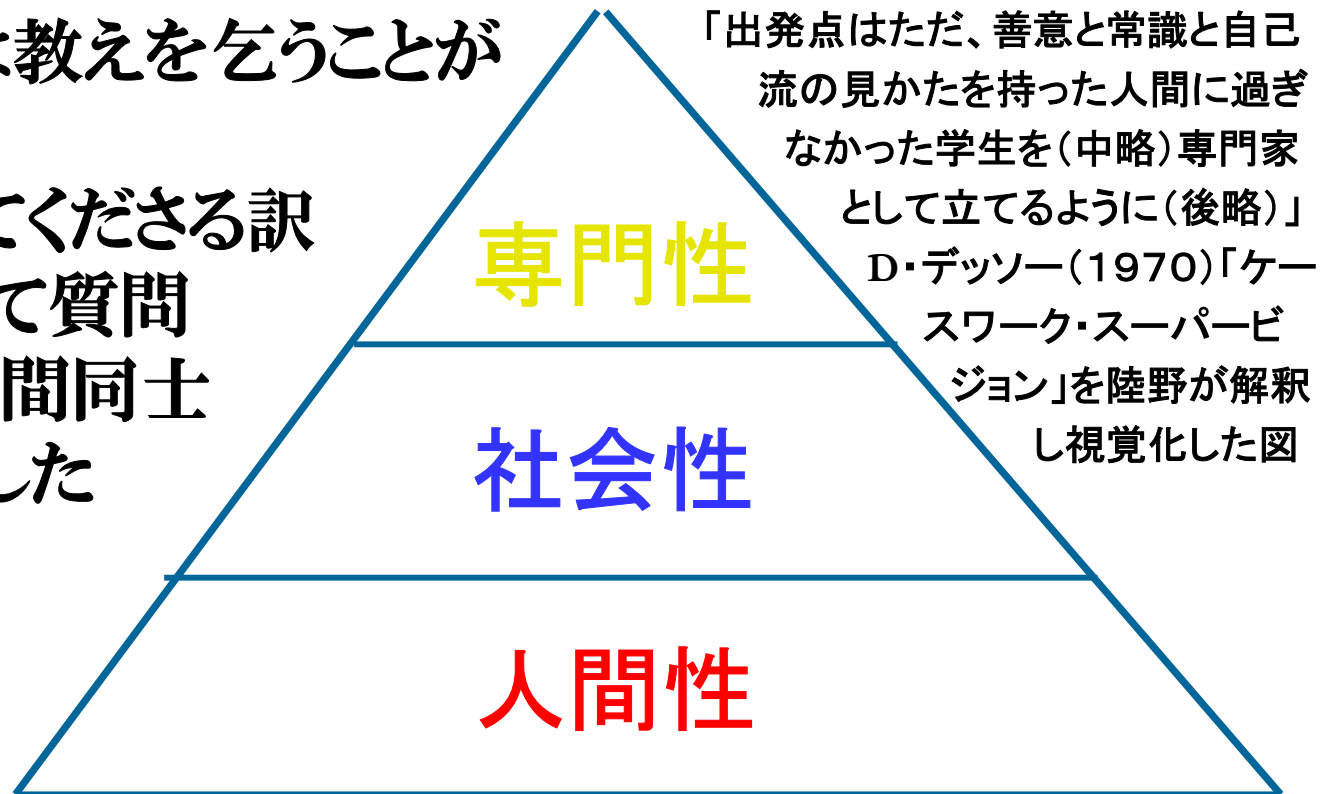
ネットワーク形成で気を付けたいこと

• 何のためのネットワークなのか、意識しましょう。やはり、**本人の為のネットワーク**だと考えます。

• 本人にも、他の支援者にも、自分の価値観の押しつけはしない。様々な価値観や視点からの意見を調整して、その人にあった支援を創り上げていくのが、支援であり連携です。

• ネットワークの中で時には教えを乞うことが多いです。

相手も忙しい時間を割いてくださる訳なので、きちんと準備をして質問しましょう。ネットワークも人間同士のつながりです。礼をつくしたお付き合いは必要です。



最後に

相談ごとがあつて「電話してもええんかなあ～」と迷ったら、まずは電話をして相談を試してみよう。その一歩が連携・協働の始まりとなります。

より良い連携・協働には、基礎知識の共有や、就労支援の共通言語が必要になってきます。この講義が、より良い連携の一助になれば幸いです。

そして、より良い連携がネットワークに広がり、働きたいと希望する人が一人でも多く働ける地域になる事を願っています。

「 就労支援はチームの力。地域の力。 」

目の前の本人さんの為に、より良い支援、より良い連携・協働をしていきましょう。